

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24229001	研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
研究課題名	次世代芳香族科学に向けた新化学、新骨格、新理論、新機能、新技術の創出	研究代表者 (所属・職) (平成 29 年 3 月現在)	内山 真伸（東京大学・大学院薬学系研究科・教授）

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>「新規化合物を構築する新反応の開発」、「独自で開発した計算化学手法を用いた斬新な反応機構と面内芳香族という新現象の提案」、「画期的な吸光特性を備えた芳香族分子の創製」など、独創的な研究手法を駆使して、幾つもの興味深い成果を上げている。また、その成果は世界的な学術雑誌にも報告されており、着実に研究が進展していると判断できる。今後は、研究計画調書で挙げた（1）新しい芳香族反応（超強酸と超強塩基）の開発と（3）金属含有芳香環の創製についても研究の推進が望まれる。</p>		

【平成 29 年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	<p>次世代の芳香族のサイエンスを開拓することを目標に、①新しい芳香族反応の開拓、②各種芳香族の起源に迫る、③他元素含有芳香族の創製、④極低 HOMO-LOMO ギャップ近赤外芳香族分子の設計と合成、などの課題に独創的な研究手法を駆使して研究を展開し、成果を達成している。</p> <p>得られた研究成果の一部は既に国際的に著名な学術雑誌に複数掲載されており、今後も論文発表によって研究成果の社会へのより一層の周知を期待する。</p>